



おじゃまします

社会医療法人名古屋記念財団 新生会第一病院

名古屋市南東部の急性期医療から介護・福祉まで担うHOSPITALグループ。腎・透析医療の中核病院である新生会第一病院（144床）は、地域の回復期医療を増強するため、今年（2018年）5月、瑞穂区から天白区に新築移転しました。Hospitality + Happyに由来するグループ名のとおり、質の高い医療ケア、患者さんの幸せを追求し続けています。

腎・透析医療の高い専門性に加え グループの総合力を生かし地域医療に貢献する

腎・透析と回復期の医療機能を増強

HOSPITALグループは、急性期医療を担う名古屋記念病院（416床）と、腎・透析医療、回復期医療を担う新生会第一病院、6つのサテライトクリニック、介護・福祉施設サービス事業を展開し、約1400人ももの透析患者さんを支えています。腎・透析医療では、名古屋記念病院は腎移植やがん手術など、新生会第一病院はシャント手術・管理、血液透析、腹膜透析、在宅血液透析（家庭透析）を担当しています。新生会第一病院は、今年、名古屋記念病院から48床を移譲される形で病床を再編。濃尾平野を望む高台に新築移転した新病院は4階建てで、1階に診察室、放射線科、手術室、臨床栄養科、患者支援センターなど、2階に一般病棟（48床、うち地域包括ケア病床20床）、3、4階に医療療養病棟（各48床、計96床）、2、3階に透析室（ベッド数各50台、計100台）を配置して、移転前の病床数96床から144床へ、透析ベッド数46台から100台へと大きく増床しました。さらに、眺望の良い4階に旧病院の2・6倍の広さのリハビリ室を配置。1階の手術室も2室に増やし、血管造影とシャント手術を並行して行える体制になりました。「腎・透析医療の機能を増強しました。回復期医療も当院が地域包括ケアシステムの一員として求められている役割であり、高めていきたい」と太田圭洋理事長は説明します。

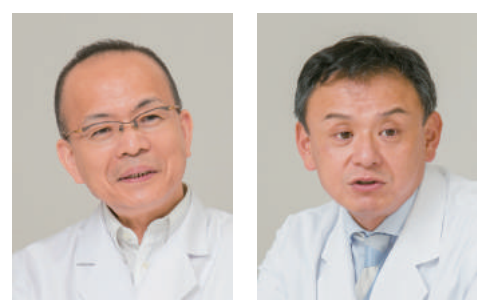
設計に職員の見解を取り入れ働きやすい新病院に

新病院は、動線を短くする工夫を随所に凝らしています。たとえば、食堂は2、4階の病棟ごとに、透析室も2、3階に配置して、移動が楽になりました。また、車椅子など介助が必要な患者さんが増えているため、2階の透析ロビーに送迎車や介護タクシーを付けられるようにスロープを設置。透析室から患者さんを迎えに行く距離が短くなり、スタッフの負担も軽減されています。さらに、職員食堂や医局などを「多職種連携」のコンセプトの下に1カ所に集約。「職員同士のコミュニケーションが活発にとられ、良い効果が現れることを期待しています」（太田理事長）

【Walk Around】

高みを目指したチーム医療でより良い医療を提供
同グループの原点は、透析医療黎明期の1971年に、太田理事長のご尊父・和宏名誉会長が中京病院に勤務しながら開設した、夜間透析専門の名古屋クリニックです。「仕事を続けながら透析を受けられる、社会復帰を支える施設を立ち上げたのです」と太田理事長。設立当初から、運動指導士や栄養士など多職種チーム医療を充実させる先進的な取り組みを行ってきたように、「より良い透析医療」を追求する文化が培われ、今に受け継がれています。「と小川洋史院長は語ります。その一つである在宅血液透析（家庭透析）は、72年から取り組むパイオニアとして、現在、39人の患者さんを受け持ちます。

「ライフスタイルに合わせながら、透析時間の確保ができ、生命予後の良い透析療法の最たるものです」（小川院長）
また、「透析ハンドブック」（医学書院刊）の執筆には各職種が参加。85年の第1版より、すでに第5版まで版を重ねています。「これをつくること自体、質の向上につながるのかもしれない」と、宮下美子看護部長。臨床工学部では、約20年前から独自に透析支援システムを開発。森實篤司統括臨床工学部長は、「抽出したデータは医療の質の評価・向上に役立っています」と説明します。太田理事長は、「ここにあってよかったと言っていただけの病院となるよう、地域医療に貢献していきたい」と、さらなる高みを目指します。



小川 洋史 院長



太田 圭洋 理事長



森實 篤司 統括臨床工学部長



宮下 美子 看護部長



職員食堂、談話スペース、会議室、医局を1階に集約。職員同士が自然とコミュニケーションを交わしやすい空間になっている

うちのここが自慢です！
Here is a Pride

創設時から受け継ぐ「より良い透析とは」を追求する文化

新生会第一病院では、「より良い透析」を追求し、さまざまな取り組みを行っています。ここでは、長年培われてきた、在宅血液透析、透析看護、透析支援システムについて、小川院長、宮下看護部長、森實統括臨床工学部長に伺いました。

「患者さんのライフスタイルに合わせられ、生命予後が良い在宅血液透析を勧めています（写真左）。患者教育のノウハウや支える体制が整っていることが当院の大きな力となっています。しっかり教育することが長く続く秘訣です」（小川院長）

「在宅血液透析は、在宅透析教育センター所属の看護師4人と専任の臨床工学技士8人が24時間オンコール体制でサポートしています。在宅透析教育センターは、患者教育も担当しており、手書きや布などで手作りのツール（写真中央）も使って理解が深まるように努めています。看護師は4人も経験豊富なDLN*の有資格者で、看護師教育や透析の専門書の執筆などにも携わっています」（宮下看護部長）

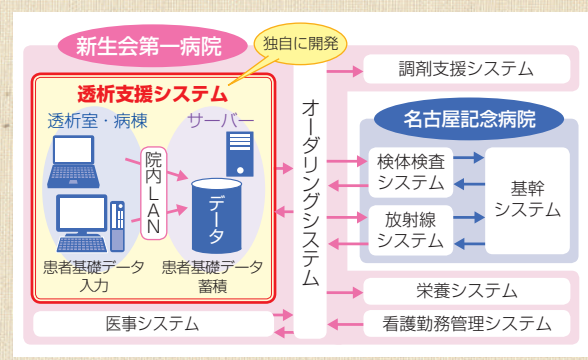
「透析支援システム（右下図）は、同一患者に対して週3回、月1回など定期・繰り返しオーダーが必要という透析医療の特性から、現場をよく知る臨床工学部が20年ほど前から独自に開発を進め、改善を重ねています。名古屋記念病院のシステムと連携させたリアルタイムな患者データ、検査画像の情報共有や、データを抽出し、治療成績の分析などにも役立っています」（森實統括臨床工学部長）



在宅血液透析（家庭透析）



自作の患者指導ツールと、医師・スタッフが執筆した書籍（上）



新生会第一病院の情報管理システムの概念図
臨床工学部にて透析支援システムを独自に開発。透析室などの各端末から入力してサーバーに蓄積した患者基礎データを一元管理し、患者情報の表示や集計および業務表、患者紹介状、物品発注表なども作成できる。名古屋記念病院の検体検査、放射線システムなど各種システムとオーダリングシステムを連携させ、HOSPITAL腎透析事業部全体の患者属性、実施クール、処方・注射（定期・臨時）、検査、画像データの双方での確認、情報共有が図られている



*慢性腎臓病療養指導看護師（DLN：Dialysis care and management of chronic kidney disease Leading Nurse）



社会医療法人 名古屋記念財団
新生会第一病院
●所在地／愛知県名古屋市天白区高宮町1302
●透析台数／100台
●透析関連スタッフ／199人
●透析患者数／266人